

行政評価アドバイザー会議を終えて ～行政評価アドバイザーによるコメント～

平成27年9月3日(木)

五味アドバイザー

今回、補助金の交付を対象に評価を行ってきた訳ですが、感じましたのは、既定路線に乗った補助金交付が多いのではないかとことです。補助金を受ける側も当然毎年、受けられると予定した上で、活動計画を作り行っているのではないのでしょうか。できるだけ補助金事業を行う際に終期を設定して、目的と成果を検証しながら、補助金の交付を行うという制度にしていったらいかがだろうかと感じました。

諸平アドバイザー

私からは、あくまでも感想と言うことで、お聞きいただきたいのですが、私は山梨県のいち県民の視点で疑問に思ったことをお尋ねするといったスタンスで臨んで参りましたが、実際思っていた以上に複雑で、その事業の始まった背景であるとか、歴史であるとか、他部署との関わりなど掘り下げて理解するところまでできたのかなと。ある部分のみをみて、評価したのではないかと思う気持ちが少しあります。もっとざっくばらんに担当課の方とお話する機会があってもよかったのかなというようにも思いました。

小口アドバイザー

私からの感想ですが、まず、3人で評価するということが、他のお2人の意見が大変参考になりました。来年に生かしたいと思います。

実際に評価を決定する段になって、これまで得た情報が余りにも中途半端で判断が難しく、特に、「廃止」と言うことを言い切るというのは容易ではなく、論点を整理し、結論を出すようところがけましたが、反省の残るところです。

今回の私達の立場は、アドバイザーですので、評価とその理由の説明だけでなく、「こういう考え方はどうでしょうか」という意見を提示させて頂きました。

もう一つ、ものごとに「改善なし」ということは基本的にはあり得ないと思っていますので、「要改善」若しくは「廃止」ということで評価をいたしました。全ての事業にそれなりの改善テーマがあるはずですので、県の方にもそういった考え方で取り組んで頂けたらと考えております。

先程、五味アドバイザーからもお話があったとおり、対象が「補助金」と言うことで、特に国との関係で淡々と事務処理をしているという印象を持ったものがたくさんありますが、その中でも、周知の仕方や、事務処理の効率化といった改善もあると思いますし、その補助金の関連事業との結び付けで考えていくと取り組むべき課題はたくさんあるものと思います。

また、いつの間にか補助金が恒常化していて、補助金を交付すること自体が目的になっており、何故、何のために補助金を交付するのかという視点が足りないのではとの印象を持ちました。40年・50年と長くなれば長くなるほど、当たり前になってしまっていますが、50年と言えば環境は全く変わってきていますので、今回の評価を、何かを改善するきっかけ、見直す契機として頂ければという意味からも提案させてい

ただきました。

最初にお話ししましたように、評価のための情報の量と質が重要なポイントとなります。そこで、これはお願いというか、提案になりますけども、できれば最初から、担当部局の方からお話を聞いた方がいいのではないかと思います。事務局の方を一度介しますと、どうしても少しニュアンスが異なって伝わって来てしまいます。担当部局からお話をいただいて、質問させていただいて、後で追加質問も投げかけ、それを踏まえて第2回目に回答をいただく、そこでもう一回やり取りをすれば、お互い消化不良感が少なくなるかと思しますので、検討課題として考えていただければと思います。

正直言って、日程は、かなりきつく感じました。今日あたりは、半日で十分行けるのではないのでしょうか？その年によって、説明者・アドバイザーも変わり必要な時間も大分違うのですが、日程的な検討も頂ければ幸いです。様々な反省もあり、また大変勉強にもなりました。どうもありがとうございました。